

資源・エネルギー・環境事業領域のさらなる 発展にむけた検査・計測・制御技術への期待

株式会社 IHI 取締役 常務執行役員
資源・エネルギー・環境事業領域長
エネルギー・プラントセクター長

堂元 直哉
Domoto Naoya



IICの皆さん、日頃、資源・エネルギー・環境事業領域の製品、システム、プラントの事業展開に多大な貢献をいただき、この場をお借りして感謝申し上げます。主なものを上げてみると、ボイラでは耐圧部を中心とする非破壊検査・排ガス計測、原動機ガスタービンではIHI製の制御装置と運転監視装置、LNG貯蔵タンクでの非破壊検査と、IICの事業は、IHIの目指すべき高い信頼性を担保するコア要素技術と位置付けられます。

お客さまが、IHIのエネルギー関連製品・プラントを指向してくださるのは、高い性能はもちろんのこと、引き渡し後も高い信頼性を誇り、その製品が安心してお客さまの求める事業の最大価値を長期にわたって引き上げるからと考えています。それは、IHIにて大切にしている“ものづくり”精神が、設計・製作・調達・建設のみならず、引き渡し後の運転監視・予防保全・メンテナンスといった、製品・プラントのライフサイクルにわたるきめ細やかで、高い蓋然性をもった技術力を生み出し、お客さまの信頼にこたえているからと思っ

ています。これを基盤として築きあげているのがIICの皆さんの検査・計測・制御技術です。

このたび、IHIの次期中期経営方針2016が発表されました。その中で、資源・エネルギー・環境事業領域での目指す方向は、以下の通りとなります。

資源・エネルギー・環境事業領域での目指す方向性：

次の取り組みにより、多様化する資源・エネルギーインフラ需要に対する課題解決力を強化し、収益性向上と事業拡大を図る。

- ・エネルギー資源活用技術の拡大・高度化、および、高効率・高機能化によるキーハードの競争力強化と技術優位性の向上
- ・電源ニーズの多様化（分散化・安定化）に対応したEPC（Engineering, Procurement and Construction）機能の拡充等によるシステム提供力の強化
- ・ICT（Information and Communication Technology）を活用したライフサイクル全般にわたるサービスの価値向上

また、CO₂ 除去・貯蔵技術等の環境負荷低減技術の高度化・早期製品化とともに、原子力設備の除染・廃炉、放射性廃棄物処理システム等の技術開発・実用化を通じて、低炭素社会の実現に貢献する。

この中期経営方針の方向性のすべての項目が、IICの事業のさらなる活躍の舞台となります。先日のある経済学者の講演会にて、日本の失われた20年を切り開くキーワードは、ポスト産業資本主義としての人的資本：知力・知恵だ、との言葉が印象深く残っています。IICの皆さんの知力：検査・計測・制御技術が、次世代のIHIを築くものと期待しています。一緒に取り組んでゆきましょう。